

日中問題に関する大学生の意識調査

岡田 臣 弘^{たかひろ}

2001年10月、私達は日本の大学生を対象に「日中問題に関する大学生の意識調査」を実施した。この調査は、4年制大学を中心に中国関連のテーマを講義する全国の教師、研究者が連携し、四国、九州を除く全国28大学を対象にした（対象大学・回答数は資料1、2）。この結果、4511人の学生から回答が得られた。名商大では、私の受講生151人から回答を収集した。全国調査の結果は、2000年以降の日中摩擦の高まりを反映する興味深いものとなった。以下は、調査結果に対する、私の分析ならびに講評である^(注)。

[1] 調査学生4500人の特色と信頼性 ——中国の基本知識を持つ大学生

1) 調査対象のユニーク性

日中関係に対する世論調査は、総務庁はじめ、官民機関、調査会社がさまざまな視点から実施している。そして大方の調査対象は「無作為に抽出した一般市民」だった。もともと複雑な日中関係の考察にはある程度の基礎知識が必要だ。しかし、在来の調査がもたらす属性の不特定性から、被調査者の認識度、知識面でばらつきが避けられなかった。調査結果に対する一貫性と信頼性は、兼ねて指摘されたところである。

その点、今回の調査は中国・アジア問題や中国語を教えている教師、研究者が、「一定水準の社会知識・常識のある大学生」「中国と関連する知識をもつ授業受講者」を対象に実施した。調査される側の知的水準が一定しており、理性的判断も期待できて

信頼性は比較的高い。

2) 調査手法・調査員の特色

調査は神奈川大学・田畑光永教授らが呼び掛け、学会、マスコミ界、各種団体などで、中国を中心にアジア太平洋、国際問題にかかわる教師、研究者が協力した。ちなみに田畑教授は1978、79年当時TBS特派員として北京に駐在しており、同時期に日本経済新聞社特派員として同地に駐在していた私の“同僚”である。

意識調査の時期は2001年10月中旬。同調査は、あらかじめ用意したアンケート用紙に回答を書き込んでもらい、田畑教授らが集計作業を行った。

名商大では、私が担当する「中国社会構造（外交・華僑）」（月曜3時限）、「中国の歴史と文化（経済）」（月曜4時限）、「東アジア圏事情」（火曜2時限）の3科目受講生から、資料2のような12項目の共通設問に答えてもらった。本学の3科目受講生の全国学生4511人に占めるシェアは3.3%。少数の学生は、私の科目を2、3科目重なって受講している。他の大学も同じような状況があり、数値的に厳密な比較はむづかしいが、調査結果は学生世論の動向を知る手掛かりとしては十分な内容である。

3) 設問の内容・総務庁調査との比較

設問はまず中国に対する関心、学習状況、好感度などや基本知識を確かめた。同時に日本の中国侵略と中国の謝罪要求、日本の歴史教科書検定問題、2001年8月小泉首相の靖国神社参拝など時事問題への反応を聞いた。このほか、大学生が中国の政治家、学

(注) 2002年4月小泉首相の靖国神社参拝、同5月中国・瀋陽日本総領事館への北朝鮮家族駆け込み事件などを巡って、日中関係が緊張した。これらの事件を受けて、日本の大学生の対中認識・意識にどんな変化があったか。日本側の追跡調査と合わせ、中国側の対日意識調査があれば興味深い。

者、芸術家などを、どれだけ知っているか名前を記述させたが、この部分は未集計である。

今回の調査は、2000年10月総理府（現在の総務庁）が実施した世論調査の設問と似通っており、比較対照の参考になる。ちなみに総理府調査は、全国20歳以上の成人3000人を対象に調査員が面接調査（層化無作為抽出）し、有効回答数は2107（70.2%）だった。我々の調査は、回答件数では総理府の2倍を遥かに超えている。

【II】 調査結果の分析と講評

1) 「中国への興味」と「中国語学習」の相関性

「中国に興味ある者」（問1）は、「非常にある」「ある」を含めて59.4%と極めて高い。「ない」「全くない」を合わせても12.4%しかなく、学生の関心度の高さを現している。2001年の中国は、世界不況をよそに7.3%の経済成長を達成する一人勝ちとなり、「世界の生産基地」をイメージアップした。

しかも同年末には念願のWTO加盟が実現し、2008年の北京オリンピック開催も決まるなど、日本学生の対中関心はいやが上にも高まった。

そして「中国語を勉強しているか」（問2）では、「以前勉強した」「現在、勉強中」を合わせると48.6%、「これからするつもり」10.0%と合わせると58.6%で、問1の「興味」との相関関係が明らかだ。

2) 少ない中国訪問・中国の友人

意外なのは、「訪中経験のない学生」が90.3%と極めて高いこと（問3）。また問4、「中国の友人がない」70.6%、「ごく少数」27.0%を含めると、実に98%近くが現実の中国を実感してない。中国の友人といっても、大学で机を並べる中国からの留学生が大半と想像され、残念ながら限定的な中国認識にとどまっている。

問1、2（興味の高さ）と、問3、4（体験・接触）の低さとの大きなギャップが、中国に対する好感度の変動を大きくしているようだ。

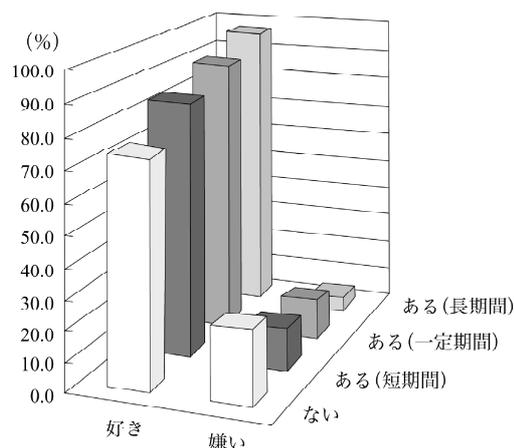


図1 中国訪問の有無と中国好感度

3) 学生4人に3人は「中国が好き」

中国好感度（問5）は、日中友好の有力なバロメーターである。この点、中国を「好き」「どちらかといえば好き」とした学生が75.2%に達したのが注目される。

2000年総理府調査では、中国に「親しみを感じる」が男女合計48.8%、同「親しみを感じない」が47.2%とほぼ二分していた。我々の調査対象になった学生の好感度が高いのは、多くが中国の授業を受講していたり、中国語を学んでいるからだ。実際、今回の調査で「中国訪問の有無」と、中国好感度とのクロス集計を見ると、中国での滞在期間が長い学生の方が中国好感度が高い（図1）。

日中友好を深めるには、両国国民の政治抜き“草の根レベル”の交流が欠かせない。名商大のように、大学当局が北京、香港留学を推進し、中国でのインターンシップまで支援しているのは心強い。日中学生の交流拡大と相互理解の深化は、両国の大学全体に与えられた緊急課題である。

4) 中国のプラス・イメージは「歴史・文化」。マイナス・イメージは「大国意識」「執拗な戦争責任追及」

問6は、中国に対するプラス、マイナス、中立イメージ24項目をアト・ランダムに列記し、それぞれの項目について「そう思う」「思わない」「どちらとも言えない」の3つの選択肢から選ばせた。

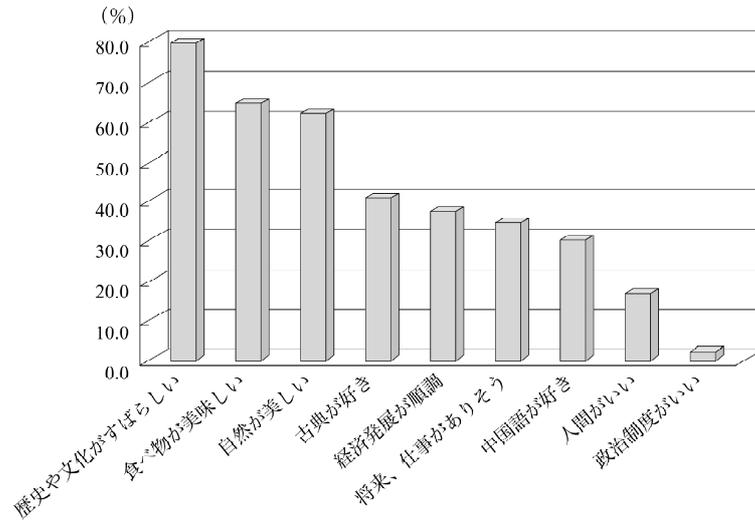


図2 プラス・イメージ

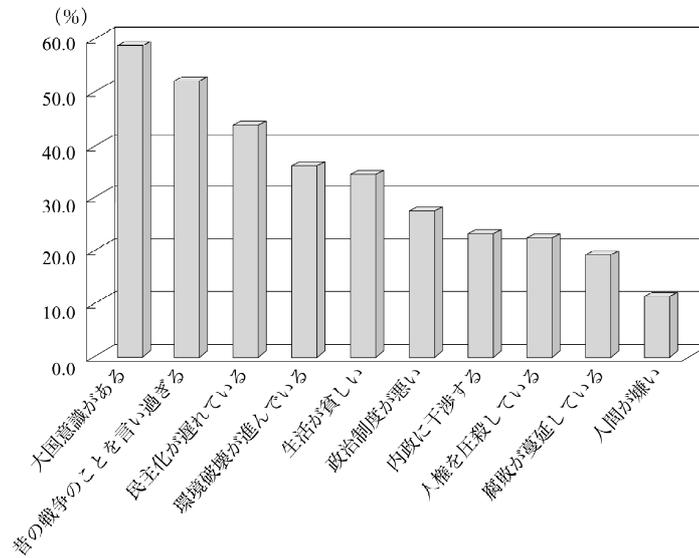


図3 マイナス・イメージ

①プラス・イメージ (図2)

「歴史や文化が素晴らしい」には80%近い支持があり、次いで「食べ物」「自然が美しい」など、歴史、伝統、自然といった現代中国との関わりが比較的少ない項目に支持が集まっている。現代中国と関連があるプラス項目では、「経済発展が順調」「将来、仕事がありそう」など、発展する経済に対して3分の1を超える支持がある。その反面、「政治制度がいい」と、評価したのはわずか2.1%で、経済に対する評価に比べて極端に低い。経済改革・開放に置きざりされる政治改革の遅れに注ぐ、日本の大学生の

目は厳しい。

②マイナス・イメージ (図3)

マイナス・イメージは「大国意識がある」が59.2%、「昔の戦争のことを言い過ぎる」が51.9%と、他を圧倒している。中国の国際社会における大国意識と自国利益優先の姿勢、中国侵略に対する中国の執拗な批判に、うんざりしている事実を物語る。これはそのまま日本人一般の声でもあろう。

こうしたマイナス・イメージの延長上に「民主化が遅れている」43.5%、「政治制度が悪い」27.4%、「内政に干渉する」23.1%、「人権を圧殺している」

22.0%など、内政批判が重なる。「人間（中国人）が嫌い」がわずか11.1%と最も低い率であることと対比すれば、中国政治指導者の言動、党独裁体制によるイメージ・ダウンは明らかだ。

1978年改革開放による市場経済化で共産主義イデオロギーは空洞化し、腐敗する共産党に対する中国国民の信頼は地に墜ちている。共産党に対する求心力は、経済発展・生活向上とナショナリズム高揚しかないのが現実だ。1931年満州事変以降の日本による対中侵略批判は、中国国民を党の下に引き付ける格好の手段となってきた。

しかし49年に成立した共産主義中国が行なった59年ラサ暴動鎮圧、66年文化大革命、89年天安門弾圧や、50年朝鮮戦争による韓国、そして79年ベトナム戦争によるベトナムからの侵略批判、75-78年にかけてカンボジア市民100万人以上を虐殺したポル・ポト政権支援への批判などに、中国指導者はどう応えるのか。国際化による情報公開で、中国国民は共産党指導者の失政にも次第に寛容でなくなるだろう。対日批判の矛先が、一転して中国指導者に向かう可能性は、89年天安門事件で実証済みだ。

5) 稀薄すぎる歴史認識と知識

問8、問9では、日本の大学生が近現代の日中関係にどのような知識と見解を持っているか調べた。先の間6で明治以降の日中間の歴史を「よく知っている」「大体知っている」は、合計しても40.8%と半分にも満たない。こうした事実を背景に問9の対中侵略謝罪問題と重ねると、気掛かりな点がある。

対中謝罪では「十分謝罪した」がわずか21.2%にすぎないのに、「謝罪が不十分」「謝罪していない」が合わせて63.5%にのぼっている。日中関係の歴史すら良く知らないのに「謝罪が不十分」「謝罪していない」が過半数を越えるのは、中国が執拗に謝罪要求するので、この際、謝罪すれば「過去は水に流せる」と日本的な甘い考え方をしている節がある。

中国指導者の姿勢には、謝罪攻勢を中国ナショナリズム高揚と日本封じ込めの梃にする政治的意図が窺える。学生を含めて日本世論の国際政治・中国音痴、場当たりの対応を改める必要があるようだ。

日本は明治維新以降、欧米に追いつき追い越す近代化路線を追求してきた。それだけにアジア諸国、とりわけ中国と正面から向かい合う姿勢が稀薄で、中国側が日本に批判的な歴史観を教育して来たのとは大きな差がある。大国化する中国の対日政治、経済圧力が増大する中で、日本官民、教育機関には中国の政治的見解に引きずられない、日本の利害をしっかりと踏まえた歴史教育が求められる。

6) 教科書、靖国問題で対中態度に変化

問10から問12までは、2001年政権について小泉首相の下で発生した教科書検定、靖国神社参拝に関連する最もホットな設問である。問10は、昨年世に出た西尾幹二氏ら12人で構成する「新しい歴史教科書をつくる会」の『新しい歴史教科書』出版に関わるものだ。

同教科書には、中国、韓国から、皇国史観に立ち日本の中国、韓国侵略を矮小化したり、戦争を美化し、謝罪の姿勢がないとの批判が出た。そして日本国内でも日教組、父兄・住民組織などが、各地教育委員会などに教科書として採用しないよう働きかけた。

これに対する大学生の受けとり方はかなり冷静だ。問10では、中国政府の態度は「理解はできるがすこし行き過ぎ」がほぼ6割にのぼった。「内政干渉である」を含めると7割が不快感を表明している。「正当と思う」がわずか15.4%だったことと対比すると、中国の執拗な教科書批判に対する日本の大学生のうんざりした気持ちといらだちがはっきりする。

靖国問題は、小泉首相が終戦記念日に先立つ2001年8月13日一部の反対を押し切って参拝、中国、韓国の対日批判に呼応して日本国内の世論も沸騰した。問11では中国の批判を「理解はできるがすこし行き過ぎ」が48.7%と約半分を占め、「内政干渉である」とはっきり批判したものを含めると63.1%に達し、中国の反対を「当然だと思う」21.7%の3倍にのぼった。

問12で小泉首相の靖国参拝を37.7%が支持表明し、「支持しない」28.4%を10ポイント近く上回っている。支持者の理由（問12-1）は、戦争犠牲者に哀悼の意をささげる「首相の考えに同調」が約72%

と、「小泉人気」に大きく影響されている。一方、反対者（問12-2）の45.3%は「近隣諸国への配慮」を理由にしており、社民党、日本共産党などと同じ言い分だ。近隣への配慮でぐらぐらする前に、世界第二の経済大国としての主体性と責任を自覚するのが先決だと考える。

同時に「8月15日に参拝すべきだった」から「支持しない」と表明した強硬意見が15.9%にのぼったのも無視できない。

以上、問10から問12までの応答の内容は、「富強」を掲げる江沢民政権への警戒心と、国家としての日本の立場をもっと明確にすべきだとする“静かなナショナリズム”の高まりを示唆しているようだ。

7) 大きい日本マスコミの影響力

回答者の属性に絡む質問で、購読紙と中国の好感度との相関性では朝日新聞と産経新聞が好対照となった。下記にその内容を紹介する。

①中国に対する「好き」「嫌い」（「どちらかといえば」の中間部分は除外）では

朝日新聞読者	好き 19.4%	嫌い 3.2%
産経新聞読者	好き 9.5%	嫌い 10.7%

②侵略に対する謝罪では

朝日新聞読者		
十分謝罪した	19.4%	十分ではない 49.3%
謝罪してない	16.9%	わからない 14.2%

産経新聞読者		
十分謝罪した	42.1%	十分ではない 29.8%
謝罪してない	9.9%	わからない 17.5%

③教科書問題に就いての中国の態度では

朝日新聞読者		
正当と思う	19.4%	少し行き過ぎ 57.9%
内政干渉だ	11.1%	わからない 11.5%
産経新聞読者		
正当と思う	7.6%	少し行き過ぎ 48.5%
内政干渉だ	31.6%	わからない 11.1%

その他、読売新聞、毎日新聞、日本経済新聞、東京新聞などの読者の回答は、朝日新聞と産経新聞のほぼ中間だった。中国に友好的だから朝日新聞を読むのか、朝日新聞を読んでいるから中国に友好的な

のか。産経新聞読者にも同様な質問を提起できる。

ちなみに問7では、大学生の中国についての知識が「ラジオ・テレビ」によるもの66.8%で、「授業」55.1%を上回る。反面、「インターネット」の低さは意外だった。

はっきりしているのは、対照的な立場の二つの全国紙を含め、映像、活字メディアが世論形成に果たす影響力の大きさである。なお全国紙の購読シェア（複数回答）は、朝日新聞1802、39.9%、読売新聞1271、28.2%、毎日新聞447、9.9%、日本経済新聞393、8.7%、産経新聞169、3.7%、東京新聞45、1.0%。

【III】 総括

——日中「草の根交流」の更なる拡大を

1) 求められる中国の「曇りない対日観」

今回の調査で痛感したのは、中国側の“曇りのない”対日意見表明の必要性である。中国人の対日意識調査については、1997年『中国青年報』くらいしかない。同調査によると、「日本についての印象」では、「とっても良い」2.0%、「良い」12.5%とポジティブ評価は合わせて14.5%にすぎない。反対に「悪い」27.1%、「非常に悪い」14.4%と合わせると41.5%。ネガティブ・イメージが、ポジティブ・イメージを遥かに超えている。

また中国人から見た「日本人の中国人に対する態度」（複数回答）は、「尊敬」14.8%、「友好」25.0%と、4割にのぼる反面、「見下げている」53.8%、「排斥している」50.8%、「敵視している」37.6%、「恐れている」26.6%など、残念ながらネガティブ・イメージが強い。こうした調査結果については、傾聴すべきものがある。経済大国・日本の奢りから中国を見下す態度など、反省材料だし、中国の急速な経済発展を軍事脅威論と同列に論じる混乱もある。

ただ『中国青年報』の調査も“官製”の色彩をめぐえず、我々の調査より4年前という点でも、単純に比較できない。中国はいまだに「情報鎖国」で、党指導部が「反日」を共産党への求心力に利用しようとする狙いから、学校教育での教材が日本への反

感を植え付ける傾向が散見され、マスコミもこれに同調している。当面、WTO加盟による中国経済の更なる拡大や、2008年北京オリンピック開催がもたらす偏狭なナショナリズム・中華優越意識の高まりで、短期的には対日意識が悪化しないか気掛かりだ。

しかし、中国が日本の生産基地化（日本空洞化）している現実や、アジア安全保障に対する日中の相互依存の高まりを直視すれば、日中両国はアジアの大国として「長期共存」しか選択肢がない。

2) 日中違いの認識で共生

1972年日中国交回復から30周年を迎えた今日、日本側が行うべきは、「日中の違い」をあらゆる面で率直・敏速・継続的に中国側に伝達する作業だ。中国官民による事実を歪めた日本情報や評論・批判には、日本の官民、個人が、事実を提示して修正を求めるべきで、この点で、中国迎合と見られる一部日本マスコミは猛省すべきだ。中国側の誤った対日観を増幅させる懸念があるからだ。

この30年間の「日中友好」は、基本的には中国の主張を肯定し、受け入れた一方通行を否めない。日中両国は、歴史、政治構造、経済体制、社会生活の各方面で異質であり、「同文同種」ではない。これが「曇りのない目」で双方が観察し合い、交流する

上での基本である。

日本は太平洋戦争での敗戦から60年近く、平和国家に徹し、世界第二の経済大国となった。マスコミとならんで、戦後日本の世論形成に影響力を及ぼしてきたいわゆる「進歩的知識人」が喧伝する「日本国家悪」史観は、私は現実から遊離した陳腐なイデオロギーと考える。日本には、中国当局が世論形成に常用する「軍国主義」の影など、どこにも無い。あたかも「市民社会」が国家に代替できるような進歩的知識人の“幻想的国家観”も退場して欲しい。日本はアジアの責任ある民主大国として、中国の政治開放、人権尊重を求め、軍事大国化の危険性を率直に指摘してこそ、真の友好であり、友人である。

中国当局が口癖にする「子子孫孫に亘る日中友好」には、まず次代の担い手である日本の大学生が、日本人としての誇りと国家観を持って、日中関係に関する過去の歴史を前向きに掌握・理解するのが大前提である。日中両国の大学生はイデオロギーを超克し、大学、個人レベルの「草の根交流」を拡大すべきだ。双方とも、感情論、偏見を廃して、事実に基づいた議論を正面から戦わせる。個々の課題、プロジェクトについては立場、意見の相違を認めあつた上で、21世紀アジア太平洋の平和と発展で積極的に協調するのが順序である。

資料1

日中問題に関する大学生の意識調査 対象大学・回答数

度数分布表

総計量		地域	学校	性	年齢	年次	在籍の学科
度数	有効	4511	4511	4511	4511	4511	4511
	欠損値	0	0	0	0	0	0

度数テーブル

地域	度数	%	有効%	累積%
有効				
北海道	386	8.6	8.6	8.6
東北	232	5.1	5.1	13.7
関東	2714	60.2	60.2	73.9
静岡	213	4.7	4.7	78.6
中部	192	4.3	4.3	82.8
近畿	738	16.4	16.4	99.2
中国	36	.8	.8	100.0
合計	4511	100.0	100.0	

学校	度数	%	有効%	累積%
有効				
北海道大学	332	7.4	7.4	7.4
北海道教育大学	54	1.2	1.2	8.6
石巻専修大学	146	3.2	3.2	11.8
奥羽大学	86	1.9	1.9	13.7
山梨学院大学	184	4.1	4.1	17.8
早稲田大学	297	6.6	6.6	24.4
東洋大学	278	6.2	6.2	30.5
法政大学	214	4.7	4.7	35.3
東京電機大学	38	.8	.8	36.1
明治学院大学	169	3.7	3.7	39.9
敬愛大学	114	2.5	2.5	42.4
神奈川大学	964	21.4	21.4	63.8
横浜市立大学	330	7.3	7.3	71.1
静岡大学	52	1.2	1.2	72.2
名古屋商科大学	151	3.3	3.3	75.6
松坂大学	41	.9	.9	76.5
京都工芸繊維大学	3	.1	.1	76.5
同志社女子大学	43	1.0	1.0	77.5
大阪電気通信大学	441	9.8	9.8	87.3
大阪芸術大学	86	1.9	1.9	89.2
関西大学	37	.8	.8	90.0
姫路獨協大学	128	2.8	2.8	92.8
県立広島女子大学	27	.6	.6	93.4
萩国際大学	9	.2	.2	93.6
日本大学	36	.8	.8	94.4
慶応大学	29	.6	.6	95.1
横浜国立大学	60	1.3	1.3	96.4
静岡県立大学	162	3.6	3.6	100.0
合計	4511	100.0	100.0	

性	度数	%	有効%	累積%
有効				
1. 男	2912	64.6	64.6	64.6
2. 女	1599	35.4	35.4	100.0
合計	4511	100.0	100.0	

資料2

日中問題に関する大学生の意識調査 集計結果

日中コミュニケーション研究会

○調査期間	2001年10月中旬
○回答学生総数	4511人 四国、九州地区を除く28大学
内男子	2912人 64.6%
女子	1599人 35.4%
○1～2年次生	3113人 69.0%
3～4年次生	1338人 29.7%
大学院生	60人 1.3%
○文科系	3341人 74.1%
理科系	1031人 22.9%
総合学科系	139人 3.1%

●集計結果

問1 あなたは中国のことに興味を持っていますか？

非常にある	483人	10.7%
ある	2196人	48.7%
どちらともいえない	1255人	27.8%
ない	443人	9.8%
まったくない	119人	2.6%

問2 あなたは今、中国語を勉強していますか？		
以前勉強した	407人	9.0%
現在、勉強中	1786人	39.6%
これからするつもり	450人	10.0%
つもりはない	1837人	40.7%

問3 中国に行ったことがありますか？		
ない	4075人	90.3%
ある（短期間）	337人	7.5%
ある（一定期間）	58人	1.3%
ある（長期間）	28人	0.6%

注：短期間…1か月未満

一定期間…1か月以上半年未満
長期間…半年以上

問4 中国人の友人・知人はいますか？

いない	3186人	70.6%
少数（5人以内）いる	1218人	27.0%
大勢（6人以上）いる	95人	2.1%

問5 中国は好きな国ですか？

好き	806人	17.9%
どちらかといえば好き	2586人	57.3%
どちらかといえば嫌い	912人	20.2%
嫌い	155人	3.4%

問6 この質問は中国という国のイメージを構成すると思われる、プラス、マイナス、中立の24項目をアト・ランダムに列記し、それぞれについて、「そう思う」「思わない」「どちらとも言えない」の3つの選択肢から選ばせた。

各イメージについて「そう思う」と答えた人数と比率は以下の通り。

〈プラス・イメージ〉（前掲図2に図示）

歴史や文化が素晴らしい	3554人	78.2%
食べ物がおいしい	2898人	63.8%
自然が美しい	2795人	61.5%
古典が好き	1838人	40.5%
経済発展が順調	1699人	37.4%
将来、仕事がありそう	1570人	34.6%
中国語が好き	1364人	30.0%
人間がいい	756人	16.6%
政治制度がいい	94人	2.1%

〈マイナス・イメージ〉（前掲図3に図示）

大国意識がある	2690人	59.2%
昔の戦争のことを言いすぎる	2357人	51.9%
民主化が遅れている	1978人	43.5%
環境破壊が進んでいる	1616人	35.6%
生活が貧しい	1549人	34.1%
政治制度が悪い	1243人	27.4%
内政に干渉する	1049人	23.1%
人権を圧殺している	997人	22.0%
腐敗が蔓延している	838人	18.5%
人間が嫌い	504人	11.1%

〈中立イメージ〉

国が大きい	4280人	94.2%
人口が多すぎる	3604人	79.3%
安い製品を輸出する	3533人	77.8%
社会主義の国だ	2178人	48.0%
将来、日本のライバル	1783人	39.3%

問7 中国についての知識は主として何から得ていますか？
（3つ以内で○を）

テレビ・ラジオ	3013人	66.8%
授業	2486人	55.1%

新聞	2026人	44.9%
友人・知人の話	916人	20.3%
書籍	854人	18.9%
映画	729人	16.2%
雑誌・週刊誌	500人	11.1%
インターネット	303人	6.7%

問8 明治以降の日本と中国との歴史的な関係をあなた自身どの程度知っていると思いますか？

よく知っている	165人	3.7%
大体知っている	1676人	37.1%
あまり知らない	1985人	44.0%
ほとんど知らない	532人	11.8%
まったく知らない	144人	3.2%

問9 かつて中国を侵略したことについて、日本はすでに謝罪したと思いますか？

十分謝罪した	956人	21.2%
謝罪したが十分ではない	2160人	47.9%
謝罪していない	705人	15.6%
わからない	665人	14.7%

問10 いわゆる歴史教科書問題での中国政府の態度をどう思いますか？

正当と思う	697人	15.4%
理解はできるがすこし行き過ぎ	2647人	58.7%
内政干渉である	534人	11.8%
わからない	607人	13.5%

問11 小泉首相の靖国神社参拝についての中国政府の態度をどう思いますか？

反対するのは当然だと思う	981人	21.7%
理解はできるがすこし行き過ぎ	2196人	48.7%
日本の国民感情を無視した		
内政干渉である	648人	14.4%
わからない	648人	14.4%

問12 小泉首相は今年の8月13日に靖国神社に参拝しました。あなたはこれを支持しますか？

支持する	1702人	37.7%
支持しない	1280人	28.4%
どちらとも言えない	1367人	30.3%

問12-1 「支持する」と答えた学生にその理由を4択で。（内1つは自由回答）

「戦争犠牲者すべてに深い反省と哀悼の意をささげたい」という首相の考えに同調	1218人	71.9%
憲法上なら問題ないから	125人	7.4%
外国の干渉にひるんではならない	96人	5.7%

問12-2 「支持しない」と答えた学生にその理由を4択で。（内1つは自由回答）

8月15日に参拝すべきだったから	202人	15.9%
近隣諸国への配慮から	574人	45.3%
憲法上問題だから	131人	10.3%